

## 養蜂技術ノート

### クイーンバンク

特に購入した交尾済女王蜂の  
一時的な保存を想定して

#### 購入女王蜂が到着したら

女王蜂の状態はもちろん、付けてある働き蜂も元気かどうかを確かめる。キャンディーの消費量から輸送にかかった日数が推察できる。蜂の状態が良ければ、まず金網上に少量（多すぎではいけない）の水を与え、暗く涼しく静かな場所に数日間そのまま保存することができる。導入まで水は毎日忘れずに与える。

もし、輸送が長くかかったか輸送時の状態が悪くなかったなどして働き蜂が弱っていたり、死蜂がいる場合には、世話役の働き蜂を更新する。その場合は、暗い部屋内で明るい窓などを利用して、働き蜂を王籠から追い出す。もしキャンディーが不足していれば足す。女王蜂を持つ場合は胸と翅を持ち、腹部にはさわらないようにする。補充用の働き蜂は、若くなければならぬので、蜂児巣板から幼虫の世話をしている蜂を5—6匹選んで王籠内に入れる。こうしておけばしばらくの保存が可能である。もちろん給水と餌の補充は必須である。

#### クイーンバンクの利用

女王蜂の数が多ければバンクの利用がよい。クイーンバンクとは、蜂児と若蜂のたっぷりいる無王群に、王籠に入った女王蜂が複数預けられている群のことである。バンク用には4枚群くらいの無王群が使いよく、これに8—10匹の女王蜂を預けることができる。バンク用の無王群は、2—3枚の蜂児巣板を含むようにして、それに若蜂をたくさん付ける。もちろんこの群には給餌を怠らないように。もともとの女王蜂は、同居させてはならない。もし元の女王蜂がいると、王籠内の他の女王蜂は世話をされなく

なってしまう。この群のセットアップは女王蜂を預ける1—2日前に行い、バンク群が無王状態を認識して、それなりに落ち着いた状態になっているようにする。

もし新しくバンク用の受け入れ群を作るのではなく、通常の群をバンクに仕立てるのなら、その群から女王蜂を取り去る。この女王蜂の使い道がないなら、働き蜂を付けて王籠に入れ、数日群から離して保存しておく。バンクに入れる女王蜂はもとの女王蜂を抜いてから1—2日後に預ける。そしてその後さらに1—2日してからなら、王籠に入れておいた元の女王蜂もバンクに加えることができる。

バンクでは女王蜂が逃げ出さないよう王籠の蓋には十分注意する。もし外に出てしまったものがいたり、元の女王蜂を早く入れすぎたりすると、他の女王蜂は無視されてしまうことが多い。預ける王籠内には、世話用の働き蜂は入れないほうがよい。

こうしてバンクに預けた女王蜂はかなりの長期にわたり保存することができる。産卵中の女王蜂をいきなりバンクに入れることは望ましくないが、2—3週間なら特に悪い影響はないようである。預けている間気を付けなければならないことは、女王蜂の世話をする若蜂の補充である。始めにあらゆる齢の蜂児がいる良い蜂児巣板を十分に入れておけば、それらが順繰りに羽化してくるので、約1か月間はそのままでも大丈夫である。だいたい3週間に一度の割合で蜂児巣板を追加してやれば、バンクをうまく維持することができる。

バンクから出した女王蜂の導入については省略する。働き蜂と十分交渉がもて、女王蜂が寒くならないように、蜂児圈に入れてやるか、蜂児圈上のトップバーの上におくとよい。

Bonney, R. 1995. This year, make a queen bank. *Bee Cult.* 123 (2): 82-84. より省訳

(佐々木 正己)